

Wish

Vol.23
January 2023

Contents

認知症の患者さんが
手術を受けるとき

見間違いと聞き間違い、
錯覚と幻覚

もの忘れ増えた？
～家族ができる3つのこと～

皆さまからの声

予告

2023年
3月17日より

第22回Web市民講演会をNCNPチャンネルで配信します

「知れば知るほど 脳の話」
～NCNPブレインバンクより～



NCNP Channel 検索

認知症の患者さんが手術を受けるとき

NCNP病院 臨床検査部 医長 大平雅之

認知症患者さんは一般的には高齢であることが多いと思います。高齢の方は、若い方に比べて認知症の方も認知症ではない方も、いろいろな病気を持っていることが多いといえます。そうしますと、認知症患者さんが、認知症以外の病気で入院したり、時には手術やいろいろな検査を受けなければならない、といった場面も出てくると思います。このような場合、実際の医療現場で時折医療従事者が心配になるのは、「果たして認知症患者さんに対する同意や説明はどうかという点です。ご家族の方も、「認知症があるから、ちゃんと手術や検査の危険性を本人が理解、納得して同意をすることができるとは思えない」と心配されることもあるでしょう。このような場合、どうすればよいのでしょうか。

ご存知の方も多いと思いますが、日本には認知症に限らず、知的障害、精神障害などの理由で判断能力の不十分な方々を保護し、支援する制度に成年後見制度というものがあります。これは、家庭裁判所が代理人＝本人の代わりに契約などを締

結することができる人を選ぶ法定後見制度と、本人が任意後見人となる方やその権限を自分で決めることができる任意後見制度がありますが、いずれもメインの目的は財産の管理です。従って、これらの準備をしたとしても、入院中の手術の同意は財産の管理とはいえないので、単純に手術の同意書にこれらの後見人に代わりにサインをしてもらう、というわけにはいきません。

ではどうすればよいのでしょうか。実際には直接的にこの点をカバーする制度はないのですが、前提として、自分の体のことなので、原則通り、本人が理解できる範囲では本人が説明を受け、本人がサインをすることが望ましいでしょう。当然、ご家族も医療従事者も、本人の理解では心配だという場面があり、その場合には近いご家族（配偶者や、一緒に住んでいる親族）が、説明に付添い、同意のサインを頂くことが多く、これでおおむね問題がないことが多いのが現状です。ただ各医療機関で対応が異なる可能性もあるので、各医療機関に手続を確認することも重要です。

見間違いと聞き間違い、錯覚と幻覚

NCNP病院 精神科医師 水谷真志

人間の脳は、私達がぼうっとしているときでも膨大な情報の処理をしています。目を閉じていても「真っ暗」という視覚情報は常に脳に送られていますし、耳や鼻に至っては閉じることもできません。こうした五感の情報は我々が生活していくうえで大変役立つものなのですが、それでも誤作動を起こすことはあります。

「錯覚」という言葉がありますが、これはいわゆる聞

き間違い、見間違いのことです。疲労や眠気などで注意力・集中力が低下していたり、恐怖や不安が強いと起きやすくなります。「それっぽい天井のシミが人の顔に見える」という経験は誰しもにあるのではないのでしょうか。私も、「めまい」を心筋梗塞の英略称である「MI」と聞き間違えて恥をかいたことがあります。

一方で、錯覚とは違い「幻覚」はそもそも音や物が

存在しないのに聞こえたり見えたりするというものです。視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚にそれぞれ対応して、幻視、幻聴、幻嗅、幻味、体感幻覚といった種類があります。幻聴や幻視ばかりが有名ですが、実はいろんな種類があるんです。

さてこの「幻覚」ですが、とはいえ軽いものになると「錯覚」と区別しにくいものもあります。例えば、柱が人に見えるとか、水の音が人の声に聞こえるといった場合は大変悩ましいものです。当初は軽い錯覚のようなものだったのが、段々としっかりとした幻覚に発展していくことも時にあります。

また、同じ幻視や幻聴の中でも様々な原因があります。例えば、心理的な機序で発症するPTSDでの幻視や幻聴では非常にありありとした幻が生じるとされますが、脳の病とされる統合失調症などの場合は本人にも内容をうまく説明しがたい幻聴だったりということもあります。

錯覚と幻覚のどちらも、心理・身体的ストレスが大きいと増悪します。「いくらなんでもそんな見間違い方、聞き間違い方をするかな?」と思った時には、病院で医師に相談してみるというのも一つの手かもしれませんね。

もの忘れ増えた? ～家族ができる3つのこと～

NCNPブレインバンク 心理療法士 渡邊みどり

スーパーで買うものは何か、かかりつけの病院を受診するのはいつか…など日常生活では覚えていないと困ることがよくあります。この覚える機能「記憶」は加齢とともに徐々に低下することがわかっています。記憶の中でも、昔のことはよく覚えていますが、新しく覚えることから苦手になっていく、という傾向にあります。

そもそも、人はどのくらい記憶力があるのでしょうか?例えば、数字を順不同に伝えて、それを瞬間的に覚える検査をすると、7桁が限界ということが長い間いわれてきました。ただ7桁というのはとても集中できた場合で、3～4桁が妥当という研究結果が最近報告されています。例えば「さくら」は平仮名3文字ですが、1つの単語（かたまり＝「チャンク」）として数えます。つまり、1回に覚えられるのは3～4単語（チャンク）の組み合わせと考えることができます。

そこで今回は、もの忘れが増えたと気づいたら、家族ができる3つのことを紹介したいと思います。

1つ目は、伝えたいことがあるとき、視線を合わせることです。家族は伝えつつもりでも、本人は注意が逸れて聞き逃すことがあります。記憶力が低下していると、注意力も落ちていることはよくみられます。そこで、家族は視線を合わせて、本人の注意がここに向いていることを確認してから伝えます。

2つ目は、要点を絞って短文で伝えることです。例えば、宅配便の予定を伝える際「午後3時に荷物が届くから受け取ってね」などです。この際、先ほどの3～4単語以内で伝えるよう心がけることが大切です。

3つ目は、伝えたことをそのまま繰り返してもらうことです。本人が口に出すことが経験となり、比較的覚えやすくなります。

もの忘れが増えると、家族は何度も同じことを言わなければならず、会話が嫌になったり億劫になったりします。ちょっとした工夫で、お互いストレスなくコミュニケーションできる方法を探っていききたいものです。

皆

さ

ま

か

ら

の

声

電話が繋がりにくい。

電話番号が変わります。

これまでのブレインバンク事務局の電話は着信履歴で相手の番号を確認することが出来ず、留守番電話機能も不十分で折り返しの連絡ができなかったことがありました。

新番号 080-1955-4062

着信履歴で相手の番号を確認できるようになりました。

ブレインバンク事務局ではWEB講演会をご覧になられた感想や質問をお待ちしております。また、ニューズレターWishやブレインバンクについて、皆様を感じられていること、疑問に思うことなどをお寄せください。皆様からの声にお応えしていきたいと考えております。

宛先

メール：info@brain-bank.org

FAX：042-346-1889

ホームページの講演会の感想ご質問フォーム

https://www.brain-bank.org/entry/Impressions.php



事務局から

こんにちは。ブレインバンク事務局の佐久間です。みなさんの家では犬を飼っていらっしゃいますか？私の家では初めて飼った犬が昨年14才間近で天国へ行ってしまいました。それはそれは悲しくて今でも思い出すと涙が出ます。では、セラピードックをご存知ですか？障害のある方、認知症の方、高齢者、精神的及び身体的な病気療養中の方などの心を癒し、気力を高めて生活のQOL(生活の質・生きがい)を向上させるための訓練を受けた犬のことです。犬なのに不思議ですよ。でも、私は理解できるような気がします。人と犬、見つめ合うと愛情ホルモン「オキシトシン」の分

泌が双方で高まり、絆が強まるのだそうです。愛犬とですと、胸がキュンとします。

犬を飼うのは大変ですが、ご近所の犬と仲良くなることならできますよね。散歩のコースは何パターンかあって大体決まっているので同じ道でよく会います。飼い主さんとワンちゃんに笑顔で「こんにちは」と挨拶し、「触ってもいいですか？」と尋ねます。「大丈夫ですよ」と言われれば大体は咬んだりしないので、姿勢を低くして手の甲を出してみてください。飼い主さんは、飼い犬が他の人や犬と触れ合うのを大事にしている方が多いので、知らない人からでも声を掛けられると喜ぶ方が多いです。仲良くなってアイコンタクトするようになったら、しめたものですよ！

お問い合わせ資料のご請求はこちら

NCNPブレインバンク事務局 <http://www.brain-bank.org>

187-8551 東京都小平市小川東町4-1-1 国立精神・神経医療研究センター内
TEL：080-1955-4062 Email：info@brain-bank.org



ブレインバンクの
ホームページ

